

パキスタン・ラホールの取り組み ～交通管理能力の向上へ

パキスタン第2の都市であり、約1千万人を擁するパンジャブ州の州都ラホール。急速なモータリゼーションの進展により交通渋滞が深刻化していました。2012年にBRT路線（Metro Bus System(MBS)）が整備され、一部の交通軸の交通緩和に貢献したのですが、ラホール都心部では歴史的建造物も多く、建物が密集しているため新たな道路整備や拡幅は困難で、交通管理施策が渋滞緩和のカギを握っています。しかしながら、有効な交通管理が行われていないため、交通渋滞は再び悪化しはじめています。



BRT路線（Metro Bus System(MBS)）と一般道の混雑

2016年より「ラホールセントラル地区における交通管理能力強化プロジェクト」ではラホールにおける交通混雑緩和に必要な交通管理能力の向上を目的に、交通管理・交通円滑化事業を中心とした対策の企画立案及び実施能力を強化する活動を行っています。



第1回 JCC(合同調整委員会)はP&D 長官が議長を務め、2016年3月24日に開催しました



週 2 回開催している現地担当者（TEPA）とのミーティング。白熱した議論を展開

現在は、ラホール都心部における交通状況を把握し、必要なパイロットプロジェクトを選定するための交通調査をオン・ザ・ジョブ・トレーニングで実施し、現地担当者（TEPA）の能力向上を図っています。

今後、ラホールにおける交通管理が現地担当者（TEPA）の手によって、合理的手法で適切に計画・実施される日がやってくることを目指して、これからも活動を進めていきます。



交通量調査について研修する JICA 専門家と現地担当者（TEPA）